



Campus Topics

ドイツ・カッセル大学海外短期研修プログラムの報告会を開催しました



本学とカッセル大学(ドイツ・カッセル市)は、双方の学生の利益を目的とし、共同で語学研修プログラムを計画、促進、実施するため、2019年4月に覚書を締結しました。第1回目の研修プログラムが2019年8月23日から9月17日までの3週間行われ、本学学生10名が、ドイツのツーリズム、産業、再生エネルギーなどの環境と経営に関する専門的な内容について英語で学びました。

その後、本プログラムの研修報告会が2019年10月23日から25日までの3日間おこなわれました。初日には派遣学生の代表として、環境学部3年森美沙さんと経営学部2年文元端葵さんが本研修での体験や研修を通して学んだことについて報告しました。来年度の第2回目の研修プログラムは、8月末から9月半ばに実施する予定で、来夏の研修に参加を希望する学生らが熱心に派遣学生の体験談に耳を傾けていました。



もり みさ

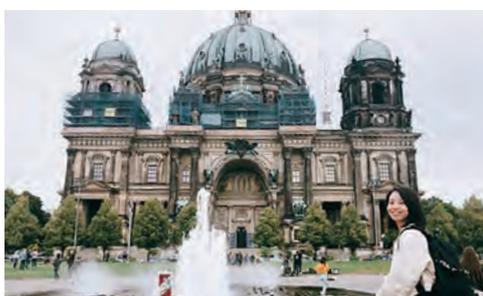
環境学部3年 **森 美沙**



カッセル大学での授業の魅力は英語を勉強するだけでなく、英語を使って環境と経営について学ぶところです。また、1週目Tourism(観光)、2週目Industry(産業)、3週目renewable energy(再生可能エネルギー)というように、1週間ごとにテーマを決めて授業を進めていくところも魅力のひとつです。研修中はずっと英語を使うので、英語力はもちろん、スピーキング力が上がりました。



研修のはじめは教育間でのカルチャーショックを受けました。日本にいたときのように恥ずかしがって発表しないでいると、英語のクラスのレベルを下げられてしまうということがありました。ドイツでは、発表しないと理解できていないと思われるのです。そういったこともあり、勇気を出して発表をするようになりました。一度手を挙げて発表してしまえば、吹っ切れて、もっと授業に参加しようと思えるようになりました。今後留学に行こうと思っている人も恥ずかしがらずに何事にも一歩踏み出してチャレンジしてほしいと思います。



研修で得た経験は、研修が終わって日本に帰ってからもいろいろなことに活かされています。研修に行ったからこそこうして報告会を開くことができ、英語のコンテストへの参加の話もいただけました。また、授業に対する姿勢も変わりました。以前は発表することは恥ずかしく、苦手だと思っていたのですが、今はドイツに1ヶ月間留学に行けたのだから怖いものはないと思っています。英語の勉強もドイツに行く前より熱心に取り組むようになりました。お世話になったホストファミリーに、今度は自分ひとりで会いに行けるように英語の勉強をがんばっています。

英語の得意不得意はあるかもしれませんが、とにかく留学に行きたいという気持ちが大事だと思います。絶対に良い経験になるので、0.1%でも行きたい気持ちがあれば、行ってください。壁にぶつかることもあります。その壁を壊して日本に帰ってきたら、考え方も人生も変わります。



ふみもと みずき

経営学部2年 文元 瑞葵



研修では、ドイツと日本の学習環境の差を感じ、自分たちで授業を作ることに刺激を受けました。英語のクラスでは、学びたいことを自分たちで提案し、調べ、ディスカッションやプレゼンテーションを行いました。



私たちは授業の中で「トゥルーコスト」という英語の映画を見て、ディスカッションを行うことを提案しました。この映画は安い服が発展途上国で作られる過程でどのような環境汚染があるのかといった内容の映画でした。例えば、革靴を作る過程で、大量の汚水が出てしまいます。日本のような国では法律で規制されているため企業が対策をしますが、発展途上国だとそういった規制がありません。そのため、企業は服を安価で作ることができますが、環境汚染につながってしまっているそうです。その映画を見た後に、服についての考え方を改めなければならぬと英語でディスカッションを行いました。非常に有意義な経験となりました。



研修に行く前は、TOEICの点数を上げようと、自分の得意な部分と不得意な部分を分析しました。また、目標点数までに足りない点数分をどの項目で稼ぐか考えました。そうすることで、項目別にどれだけ点数が必要か分かり、あまり負担をかけず、継続的に勉強できました。その結果、点数アップにつながり、目標点数に到達することができました。

留学を考えているみなさんには、ぜひ積極性を出して行ってほしいと思います。アクティブラーニングが大切です。知識は自分の経験をみんなに広めることから生まれます。積極的に参加して、話して、質問して、役に立ちそうなことはすぐ実践してください。ドイツでは、学校から帰ったら、自分の思ったことを英語に直して、パソコンに保存し、それを次回の授業のときに見ながら発表しました。みなさんも自分の考えをみんなに伝えて、話して、共感しましょう。それが新しいイノベーションにつながり、自分の強みになるかもしれません。ぜひ、実践してほしいと思います。

Campus Topics

佐藤伸准教授が マリンテックグランプリ「三井化学賞」を受賞しました

2019年9月28日に、東京コンファレンスセンター・有明で「第3回マリンテックグランプリ」が、開催されました。232チームの中から書類選考やプレゼンテーション・面談によって選ばれたマリンテックグランプリのファイナリスト12チームが、プレゼンテーションを繰り広げ、本学環境学部佐藤伸准教授の「キノコによる廃ゴム再資源化プロジェクト」が「三井化学賞」を受賞しました。

「マリンテックグランプリ」は、リアルテック領域（海洋開発、水産、マリンバイオ、海洋観測、気象、海底資源、海洋ロボティクス等）の技術シーズと起業家の発掘育成を目的としたビジネスプランコンテストです。



▲ 受賞の様子